

ラーニングテクノロジー開発室

ニュースレター

日本でも広がり始めたオープンコースウェア

MITで始められたオープンコースウェア(OCW)は世界に広がり、日本においても2005年に6大学がOCWの提供を開始し、2006年には日本オープンコースウェア・コンソーシアム(JOCW)が設立された。現在、JOCWのメンバー校は13大学で、メンバー校が提供するOCWは300コースを越えている。

JOCWのウェブサイトによれば、OCWは、大学等で正規に提供された講義とその関連情報をインターネット上で無償公開する活動である。公開される情報は、シラバスや講義ノートが基本であるが、これに加えて、実際に講義で提供された課題や定期試験とその解答例、講義ビデオ、シミュレーション教材等を公開しているケースもある。一方、課題・試験の採点や質疑応答等の教授活動はOCWには含まれないし、単位認定も行われない。

元々、MITにおいてeラーニングビジネス戦略を議論し、検討したが、その結果として、最終的にとった戦略が、ビジネスではなく、OCWなのだ。eラーニングビジネス戦略の検討から、OCWの立ち上げに携わったMITの宮川 繁 教授によれば、(1)妥当なビジネスモデルが見つからなかったこと、(2)コース教材を売るという行為が、純粋に自

分の授業を改善するために教材を公開している教員たちの価値観に反することが大きな理由だったそうである。

2001年4月、ニューヨークタイムズにおいて、MITのオープンコースウェア(OCW)が発表された。当時、MITで実施されている講義をインターネット上に公開していくというニュースに衝撃を受けた方も少なくないと思われる。その後、2002年に50コースがパイロットとして公開され、2006年には既に1500コースが公開されている。国際的にもオープンコースウェアコンソーシアムが設立され、OCWは大きなトレンドとなりつつある。

OCWとして提供されている情報は原則として「非営利の教育目的」では使用、コピー、配布、翻訳および変更が自由に認められている。JOCWでは、最近、メンバー校のコースを横断的に検索できるサービスを開始した。自分の授業設計に参考になるようなコースウェアもあるかもしれない。調べてみてはいかがだろうか(渡辺博芳)

JOCWウェブサイト

http://www.jocw.jp/index_j.htm

NEWS

◆ 2006年内のLTセミナー

以下のテーマで開催を予定しています。詳細はポスターやLT開発室のウェブサイトをご覧ください。

☆10月のLTセミナー

「学会等参加レポート

—教育改善に向けた他大学の取り組み—

10/20(金) 13:20~15:00 本部棟2号館2F 201室

☆11月のLTセミナー

「授業のための話し方講座(仮)」

11/7(火) 13:20~15:00

☆12月のLTセミナー

「授業改善セミナー(仮)」

日程調整中

◆ 平成18年度 情報教育研究集会

情報教育研究集会が、2006年11月24~25日に広島大学東広島キャンパスにて開催されます。詳細は、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://conf2006.media.hiroshima-u.ac.jp/>

◆ 第4回日本WebCTユーザカンファレンス 報告

日本WebCTユーザ会主催による第4回日本WebCTユーザカンファレンスは、2006年8月29日~30日の2日間、京都コンピュータ学院にて開催されました。4件の講演と14件の発表、5件のポスター発表と2件のデモ発表があり、本学からは佐々木茂講師と古川文人助手が発表を行いました。

これまでの教育に関する全学的な取り組みや普及活動についてや今後の展望についての発表が多くありました。

◆ 平成18年度 大学教育・情報戦略大会 報告

私情協主催による大学教育・情報戦略大会が、2006年9月5日~7日までの3日間、開催されました。

初日には、大学に求められる教育の質保証についての基調講演などがあり、2日目には104件の大会発表が行われ、渡辺博芳助教授が発表を行いました。3日目には、私情協からの依頼で、事例紹介「教育支援への取り組みと学内体制」において、LT開発室室長 武井恵雄教授が本学における取り組みを紹介しました。

◆ 板橋キャンパス WebCTワークショップ 報告

2006年9月13日に、本部情報センターと共催で板橋キャンパスにおいて、「WebCT CE6」の基礎から主要なツールの利用法、学習管理の方法などについてのWebCT CE6利用講習会を開催しました。

午前は主にコース設計についての説明と実習を行い、午後は、午前と同じ内容の「コース設計編」を行う一方で、コース運用についての内容を平行して開催しました。

これら3件についての詳しい報告、LTセミナーについては、LT開発室のウェブサイトをご覧ください。帝京大学宇都宮キャンパス内からは、LTセミナーの資料や講演ビデオなどを閲覧することができます。

■ WebCT 用語紹介

CE6へのバージョンアップによりいくつかの機能の名称が変わりました。そのうちの主な機能をいくつかご紹介します。

旧WebCT	新WebCT
オーガナイザページ	フォルダ
コンテンツモジュール	学習モジュール
シングルページ	コースコンテンツ
テスト・アンケート セルフテスト	アセスメント
学生管理	グレードブック
用語集 画像データベース	メディアライブラリ

WebCT活用授業レポート

医学部におけるWebCTの活用

今回は、医学部薬理学主任教授の中木敏夫先生にお話をうかがいます。

LT 先生には以前、約1700題もの練習問題を公開しながらも、試験問題の妥当性や採点の客観性および信頼性を確保し、各学生の弱点がわかる教育システムについてお話いただきました。現在は、これをWebCT上に移してお使いになっていらっしゃるようですが、以前と比較していかがでしょうか。

中木先生 ユーザ認証などの手続きを全てWebCTに任せることができ、教材のアップロードも簡単なもので、自分でWebを管理するのに比べて格段に手間が減りました。また、WebCTのメールアドレスを通常のアドレスと分けて使うことができるので、業務のメールと学生からのメールが混在しなくなったという点も便利に感じています。学生には、アセスメントを何度でも受けさせることで勉強をさせているので、自動採点ができる点も良いです。

一方、理工学部のサーバにファイルを置いているので、容量の多いファイルは転送に非常に時間がかかることがありました。これは板橋キャンパスに一部のファイルを移動させて解決しました。また、各学生がテストを受けた時刻の記録を一覧で見たいとか、テキストファイルで作成した試験問題のアップロードを簡単にしたいなど、改善を求めたい部分もあります。

LT ソフトウェアを購入したり、要望を出したりして、これからも使い勝手を良くする努力をしていきたいと考えています。学習の効果という面ではいかがでしょうか。

中木先生 WebCT導入による効果に限定することは難しいですが、他の科目でも使って欲しいと言う学生の声があります。

この秋からは、国家試験の過去問題をWebCTに載せて提供する計画が進んでいます。WebCTを使うと、一問ずつ解くことができ、それぞれに正誤が示されますし、選択肢の順番をランダムにして出題できます。全く同じ問題を出しても、選択肢の順序が変わると、そこに考えるプロセスが入ります。問題そのものは今までも公開されていますが、これらが従来と大きく違う点です。

また、カラー画像を見て学習する分野では、カラーコピーやCD-ROMで資料を配布していますが、WebCTを通じて画像を提供すれば、手間やコストが軽減され、学習の効率も良いのではないのでしょうか。臨床分野では難しい部分もありますが、基礎医学では利用可能性が高いと思います。

LT どうもありがとうございました。これからも医学部、医療技術学部をはじめ全学で、さらに活用していただければと思います。

編集後記 10月もう半分がすぎました。そろそろ紅葉が色づく季節ですね。よく「〇〇の秋」といいますが、みなさまにとっては何の秋でしょうか。私にとってこの秋は「スポーツの秋」です。思いっきり体を動かすと、気分もすっきりしますし、気持ちがいいですね。後期が始まり、みなさまも忙しい時期だと思います。仕事で溜まったストレスを体を動かして発散させてみてはいかがでしょうか。楽しいですよ。(及川)

ラーニングテクノロジー開発室連絡先 <http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/>

宇都宮キャンパス本部棟2号館2F 202室 028-627-7243 (直通)

◇室員：武井 恵雄(室長)、渡辺 博芳、古川 文人、高井 久美子、及川 芳恵

◇一般的なお問合せ：LT-Staff@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

◇技術的なサポート：LT-Support@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

